



Investment
Managers

アクサ IM の サステナビリティ への取り組み

2023 年概要

目次

序文	03
サステナビリティへの取り組み	04
責任ある資産運用会社のリーダー	06
アクサ IM の哲学	07
2023 年のハイライト	08
アクサ IM のアプローチを形成する信念	09
サステナビリティへのアプローチ	10
先を見据えて	12
アクサ IM プログレスモニター	13

I. 脱炭素化 14

ポートフォリオの脱炭素化	16
石炭投資撤退への道筋を描く	17
不動産の脱炭素化	18
業務運営における脱炭素化	20

II. 資本の振り分け 24

サステナブル戦略と ACT 戦略	26
実物資産	28
プライベート市場でのインパクト投資	30

III. エンゲージメント 34

投資先企業	36
サプライチェーン全体	39
従業員	40
コミュニティ	42

先進的な基準、規範、 イニシアチブとの整合	44
その他の資料	46
用語説明	48
免責事項	51

追加情報

本レポートには、特定のトピックを深掘りする追加情報を得るためのアイコンが表示されています。



詳細はこちら
ポリシー



詳細はこちら
ポッドキャスト



詳細はこちら
動画



詳細はこちら
ウェブサイト



目的を持った投資

「気候変動対策の偉大な実現要因」－ 昨年 12 月の COP28 で、国連気候変動事務局長サイモン・スティル氏がファイナンスについて語った言葉です。

8,440 億ユーロ⁽¹⁾ を超える資産を運用するアクサ・インベストメント・マネージャーズ・グループ（以下、アクサ IM と記載します）は、気候変動対策をリードする機会と責任を有しています。

このリーダーシップとは、ポートフォリオの脱炭素化だけでなく、ポジティブで永続的な影響を生み出すよう努力することによって、目的を持って投資することです。アクサ IM はこれを 2 つの方法で達成します。自然資本ソリューションや持続可能な投資に資本を振り向けること、投資先企業とのエンゲージメントを通じて企業に説明責任を持ってもらい、彼らのネットゼロへの移行を支援することです。

アクサ IM の責任投資アプローチは気候だけにとどまりません。世界が低炭素経済に移行するなか、環境と社会にもたらされる結果は深く絡み合っています。アクサ IM は、性の多様性や児童労働などの問題について企業とエンゲージメントを行ったり、世界の医療へのアクセスや金融包摂を推進するためのソーシャルインパクト・プロジェクトに資本を投下したりすることで、社会的な優先課題を進展させることにコミットしています。

アクサ IM の最大の影響力は投資家としての立場である一方、アクサ IM は 2,800 人以上の従業員を擁するグローバルな組織として主導的立場を担う義務も負っています。有意義な変化を推進するためには、アクサ IM が周りに期待する水準と同等の高い基準を維持する必要があります。これには、2050 年までのネットゼロ排出に向けた取り組みや人々が繁栄できる包摂的な文化の育成が含まれます。

自主的に発行している本レポートの目的は、アクサ IM の投資家、企業、そして雇用主としてのコミットメントと行動が、主要なテーマにおいてどのように意義のある変化を推進しているかを明らかにすることです。主要なテーマとは、主要資産クラスおよび自らの業務運営における脱炭素化、投資先企業、従業員、社会とのエンゲージメントの重要性、より持続可能な将来への移行を加速させる企業やプロジェクトに意識的に資本を投入するアクサ IM の取り組みです。

アクサ IM のスチュワードシップの役割を拡大することから、さらに野心的なネットゼロ目標を設定することまで、私は、アクサ IM は地球と人々への影響を拡大させることができると信じています。



これまでに大きな進捗を
遂げてきましたが、
**アクサ IM は今後も
取り組みを強化して
いきます。**

マルコ・モレリ

アクサ・インベストメント・マネージャーズ
エグゼクティブ・チェアマン

(1) 2023 年 12 月 31 日現在

サステナビリティ

1998

初の責任投資 (RI)
マンドートを受託

2007

「責任投資原則 (PRI)」
署名

2010

アクサ IM 初の
RI 戦略

初の ESG
統合ポリシー

2020

ネットゼロ・アセットマネー
ジャーズ・イニシアチブに
創設メンバーとして参加し、
遅くとも 2050 年までに運
用資産残高 (AUM) すべて
でネットゼロを達成するこ
とにコミット

性の平等実践における
EDGE 認証

アクサ IM
ESG アカデミーの開始

2021

サプライチェーン全体のスコープ 3
排出量を含め、グローバルで全社
の二酸化炭素排出量を初めて測定

ハーシェル & クラマー (H&K) の
責任投資ブランド指数 (RIBI) で
2 年連続欧州第 1 位

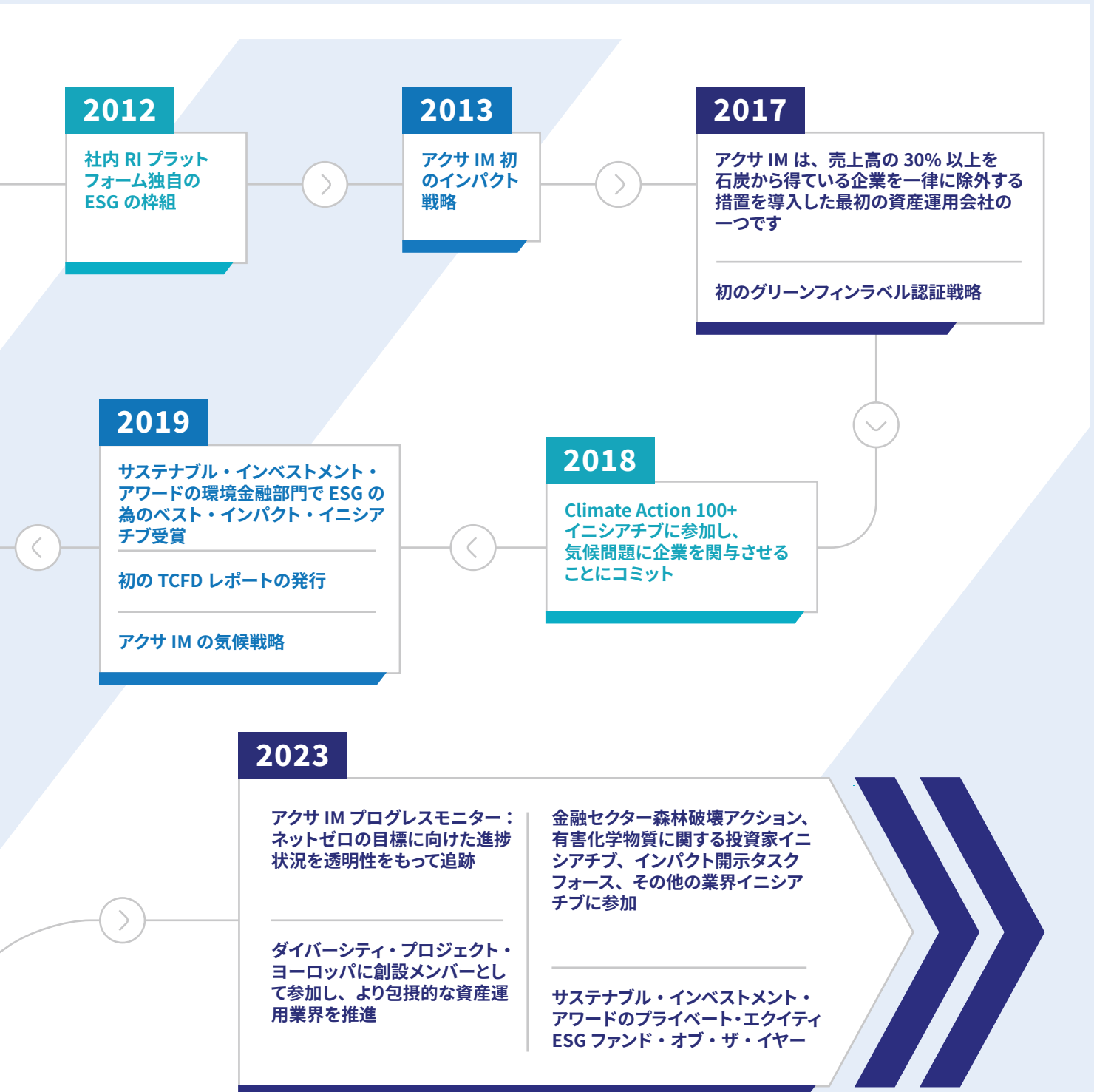
2022

アクサ IMpact Hub：透明性を向上
させるためのインパクト管理および
報告プラットフォーム

ペンションズ・エイジ・アワードによ
るサステナビリティ・プロバイダ・オ
ブ・ザ・イヤー

初の生物多様性戦略

への取り組み



責任ある資産運用会社 のリーダー

アクサ・インベストメント・マネージャーズは、長期投資を積極的に行う責任ある資産運用会社です。世界有数の保険会社の一社であるアクサグループの一員であるアクサ IM は、「すべての人々のより良い未来のために、大切なものに投資する」という強いパーパス（企業の存在意義）に向かって取り組んでいます。

8,440億ユーロ
資産運用残高

グローバルな分散型資産運用会社

アクサ IM は投資サイクルを通じて持続可能な成長を実現することを目指します。アクサ IM にはコア、オルツ、プライム、セレクトという 4 つの投資事業部門があります。各部門は、債券、株式、マルチアセット、オルタナティブといった幅広い戦略に投資しています。

4,800億ユーロ
サステナブル型運用資産残高⁽²⁾

責任投資への取り組み

アクサ IM の責任投資アプローチは、アクサ IM の事業およびすべての資産クラスに組み込まれています。アクサ IM の運用資産残高の半分以上は、ESG 統合型、サステナブル型、インパクト型の資産に分類されます。

2800人超
18か国にわたる従業員数

進展をけん引する従業員

アクサ IM は 18 か国に 2,800 人以上の従業員を擁し、22 か所の運用拠点に 780 人の投資専門家が在籍しており、幅広い経験をもってお客様にサービスを提供しています。

5,000人超
顧客数

お客様への価値創造

アクサ IM は、さまざまなセクターの多種多様なお客様にサービスを提供しています。さまざまな運用戦略を通じて伝統資産およびオルタナティブ資産クラスに投資し、すべてのお客様が投資目標を達成できるように、提供戦略を拡大するための新しく、革新的な方法を積極的に模索しています。

アクサIMの哲学

世界経済は、気候変動、長寿化、技術の進歩、新たな規制などのメガトレンドの影響を受けており、こうしたメガトレンドが、より持続可能で公平なモデルへの移行を推進しています。

アクサ IM は持続可能性を促進し、この移行を推進するうえで積極的な役割を果たすことに努めます。

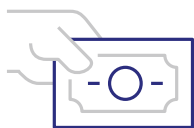
アクサ IM は 20 年以上にわたり責任投資に携わってきました。投資運用の各分野において、環境・社会・ガバナンス（ESG）の要素を積極的に取り入れることにコミットしています。また、責任投資型、インパクト投資型の商品を幅広く開発することにも努めています。

アクサ IM は、お客様に長期的な投資リターンをもたらす、より安定したポートフォリオを構築するためには、ESG のリスクと機会を積極的に考慮することが重要であるとの信念に基づいて投資哲学を定めています。

投資において伝統的な財務基準とともに非財務的要因を考慮することが大切な理由は複数あります。

- ESG リスクが高く、財務パフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性がある企業や投資をポートフォリオから除外することは極めて重要です。
- ESG 管理においてベストプラクティスを採用している企業や投資を重視します。これにより、企業の将来における主要な課題への対応が改善されと考えます。
- ESG 問題の管理に関して、企業と積極的に対話を行うことでパフォーマンスが向上する可能性があり、それによってお客様の風評リスクへの関連性を軽減します。

2023年の ハイライト



責任ある投資家として



4,800 億ユーロ

ESG 統合型、サステナブル型、
インパクト型の資産に分類される
AUM



70%

アクサ IM コアおよびオルツの資産の
内、SFDR レベル II の第 8 条または
第 9 条の対象として分類される割合



410 億ユーロ

持続可能性関連の認証が少なく
ても一つは付与されている AUM



80%

社債および株式投資のうち、
ネットゼロの軌道に整合している、
または 2040 年までに整合する
企業に投資している割合



4.7%

気候変動ソリューションに
配分されている AUM の割合



責任ある企業・雇用主として



100%

アクサ IM の 6 大拠点で使用する
再生可能エネルギーの割合



99%

アクサ・クライメート・アカデミー・
プログラムの認証を受けている
従業員の割合



45%

マネージメント・ボードに占める
女性の構成割合



38%

取締役会に占める女性の
構成割合



110 万ユーロ

慈善団体への寄付額

アクサIMのアプローチ を形成する信念

マリー・ボガタイとジル・モエックとの対話で、より持続可能な未来のために、アクサ IM が内部および外部から変化を推進することによって環境や社会の变革を主導する役割をどのように担っているかについて語っています。



マリー・ボガタイ

アクサ IM パリ
コミュニケーション・CSR・
ESG 開発グローバル・ヘッド



ジル・モエック

アクサ IM 英国
アクサグループ・チーフエコノミスト
兼アクサ IM リサーチ・ヘッド

“ 組織として「有言実行」することは、責任ある投資家としてのアクサ IM の役割にどのような影響を与えるか、逆に責任ある投資家としての役割は組織の行動にどのような影響を与えるのでしょうか。

マリー 組織としてのその前進を実現することは、アクサ IM の価値観との整合性を保ち、投資先企業に期待することに見合う行動をし、責任ある企業を求める有能な人材を惹きつけ、維持するために不可欠です。

ジル 雇用主および企業として責任ある行動をとることは、ESG 問題への理解を深め、ひいては投資家としてのエンゲージメントを強化することにつながります。また、投資先企業の持続可能な未来への移行を導くことで、アクサ IM の信頼性も向上します。

利害関係者の持続可能性への期待が進化するなかで、環境、社会、ガバナンス（ESG）の問題を投資決定に統合することに対する最近の懐疑的な見方についてどう考えていますか。

ジル 責任投資（RI）は最近批判に直面しており、投資家は利益だけに焦点を当てるべきだと主張する人もいれば、ESG をグリーンウォッシングだと否定する人もいます。私たちの意見は違います。ESG 統合は長期的な財務上のメリットをもたらすと確信しています。

マリー ESG が議論されるなか、アクサ IM は引き続き責任ある投資家として、積極的に投資に従事し、目標を設定し、規制が状況に整合するよう推進しています。それはまた、自らが模範となって主導することを意味します。

持続可能な実践への移行に関して、アクサ IM はどのように説明責任を果たしているのでしょうか。

ジル 投資家は持続可能性に関しての要求を強めています。それは良いことです。アクサ IM のお客様は、アクサ IM について、言っていることを実行する会社であって欲しいと思っています。そのために、アクサ IM は持続可能性の目標に向けた進捗を数値化するプログ्रेसモニターのようなツールを開発しました。

マリー 透明性が鍵です。アクサ IM は可能な限り多くの方に届くように、持続可能性に関する情報について必須のものと任意のもの両方を公開しています。進捗状況を定期的に共有することは、お客様から従業員まで、利害関係者をこれらの目標に向けて団結させる方法でもあります。

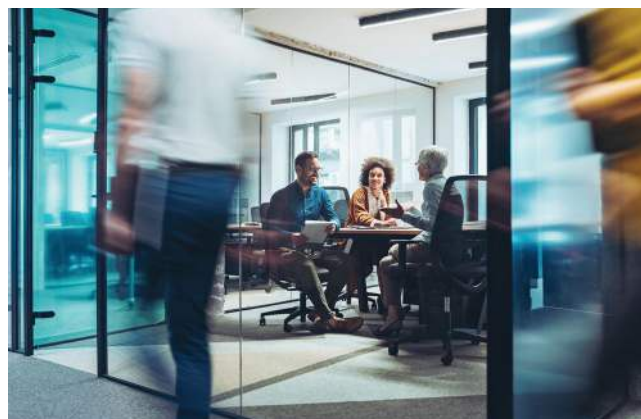
”

サステナビリティへの アプローチ

アクサ IM では、責任ある投資家としてのコミットメントと、企業としての責任を取り入れる方法を連結させています。「すべての人々のより良い未来のために、大切なものに投資する」というアクサ IM の目的は、投資家、企業、雇用主としてのアクサ IM のあらゆる行動の中心にあります。

責任ある投資家

アクサ IM は、積極的に目的のある投資を行い、責任あるソリューションに資本を振り分けながら、お客様に長期的な価値を提供することを目指しています。アクサ IM の責任投資 (RI) の枠組は、量的および定性的な ESG 調査、除外方針、スチュワードシップという 3 つの柱に基づいています。アクサ IM の最高水準のポリシーは、社会や環境に有害である投資を除外しており、物議を醸す兵器、ソフトコモディティ、石炭などがその対象として含まれます。アクサ IM は積極的なスチュワードシップを通じて、企業および発行体が持続可能性を各社の戦略やプロセスに組み込むことを強く奨励します。



責任ある企業

責任ある投資を積極的に行うだけでは十分ではありません。アクサ IM は周りに求めるものと同じ高い基準を有します。特記すべきは、アクサ IM が 2050 年までの温室効果ガス排出量のネットゼロ達成にコミットしていることです。また、バリューチェーン全体で持続可能性を推進し、アクサ IM の取引企業が自らの排出量を削減し、人権を擁護することも奨励しています。

責任ある雇用主

アクサ IM は従業員が尊重され、認められ、支援される包摂的な文化を育むことを目指しています。多様性とインクルージョン（包摂）は、アクサ IM の企業文化の中心的な価値観です。個人の学習と能力開発を優先することで、従業員が自らのキャリアの担い手として行動できるように促します。また、従業員が自分たちの仕事や組織の目的を推進するうえでの役割についてどう感じているかを理解するために、従業員の声に積極的に耳を傾けます。

サステナビリティ・ガバナンス

アクサ IM は投資先企業に高い水準のガバナンスを期待しており、自らも同じ水準を維持しています。

アクサ IM のサステナビリティチームはアクサ IM 全体に浸透しており、特に 2050 年までに投資家として、そして企業として温室効果ガス排出量ネットゼロを達成するために、協働して取り組みを行っています。

2023 年には、アクサ IM のサステナビリティ・ガバナンス構造（下図を参照）が見直されました。これは、事業部門間の連携と相乗効果を向上させ、各資産クラスの特徴をより深く検討するためであると同時に、企業責任チームや ESG 開発チームとの共同作業を通じて、アクサ IM が自らの業務や慣行を確実に言行一致させるためです。

そうすることで、グリーンウォッシュのリスクに適切に対応しながら、持続可能性の分野においてアクサ IM が「先進的」プレーヤーである、という地位を維持していきたいと強く願っています。

アクサ IM のガバナンス構造は、事業全体にわたる持続可能性リスクと機会の統合が、すべてのお客様と外部の利害関係者にとって十分に強固で透明性があるよう徹底するために役立ちます。

責任投資（RI）と ESG 管理

RI の機能は現在、RI センターの下に組織されています。このセンターは、株主とのエンゲージメントを主導し、主要な環境・社会テーマに関する調査を行う RI リサーチチームと、RI 方針の実施、事業ユニット間プロジェクトの管理、サステナブル・ファイナンスの方針提唱を担当する RI コーディネーション・ガバナンスチームを取り纏める横断的な役割を果たしています。

これらのチームに加えて、事務局およびグローバル COO 部門内の業務部門の従業員が ESG に専念し、ESG のリスクと機会に対してアクサ IM の業務の枠組が確実に適応するようにしています。



サステナビリティ・ガバナンス





先を見据えて

アクサ IM は、責任投資において競争力を維持しつつ、成長を実現させることに注力しています。アクサ IM は、野心と明確な目標を適切に組み合わせ、パフォーマンスと持続可能な成長を重視して今後の 3 年間と向き合っていきます。

2024 年から 2026 年の戦略

2024 年初頭、アクサ IM は進展をさらに加速させるための新たな戦略的計画「AIM for 2026」を発表しました。この戦略には、パフォーマンスと成長、責任、卓越性、回復力という 4 つの主要な柱が含まれています。

責任ある投資への道

責任は、2026 年までのアクサ IM の包括的な戦略の中核をなすものです。強固な ESG 基盤の上に、脱炭素、生物多様性、社会的テーマなどの分野で、革新的で業界をリードする提案を開発し続けます。オーダーメイドの ESG ソリューションを開発することで、お客様の体験を向上させていきます。主導的な資産運用会社としての役割の中で、アクサ IM は、ソートリーダーシップ、エンゲージメント、アドボカシーを促進するとともに、自らの進捗状況を追跡し、公表していきます。

今後、アクサ IM の責任投資（RI）戦略は、3 つの主要な優先事項に焦点を当てていきます。

1. 長期的に持続可能なパフォーマンスをお客様に提供するため、引き続き投資先企業とのエンゲージメントを行い、政策環境に影響を与えるよう努めます。
2. 明確なコミュニケーションと効率性を優先します。お客様の資産を運用する際に RI 原則をどのように適用しているかについて、明確に示せるように努めます。
3. アクサ IM の RI の取り組みを定期的かつ公に監視し、報告します。平易で定量化された KPI と実際の事例を用いることで、アクサ IM がどのような変化をもたらしているかを示すことができます。



詳細はこちら
ウェブサイト(英文)



アクサIM プログレスモニター

アクサ IM は、企業として、そして投資家として 2050 年までにネットゼロを達成するという目標を掲げています。財務目標と同様に、非財務目標を確実に目に見える形にすることを目指します。これを達成するために開発したのが、ネットゼロに向けたアクサ IM の進捗を追跡するための平易で透明性の高い方法であるアクサ IM プログレスモニターです。

プログレスモニターは、8 つの重要成果指標（KPI）で構成されています。これらの指標は、ネットゼロ目標に向けた戦略的重要性と実質的な寄与度を理由に選定したものです。アクサ IM のコミットメントと行動が以下の 3 つのテーマにわたってどのように変化を推進しているかに焦点を当てています。

脱炭素化

主要資産クラスと自社業務の脱炭素化

資本の振り分け

移行の加速を支援する企業やプロジェクトに意識的に資本を振り分けるソリューション

エンゲージメント

社内、社外両方とのエンゲージメント活動の重要性

定期的かつ公開する自己モニタリングを優先し、アクサ IM の報告サイクルを補完する形で進捗状況を毎年報告します。各指標には中間目標が設定されています。アクサ IM の戦略的ロードマップの一部であるこれらの目標は、適切に野心的であり、より広範なビジネス目標が反映されることを確実にするため、定期的な見直しを行います。

非財務指標は、その指標を担当するアクサ IM チームが直接測定しますが、第三者データプロバイダに依頼する場合もあります。データはアクサ IM のテクニカル・コントロールチームが検証します。

プログレスモニターの指標

本レポートでは、次の 8 つの指標、2023 年の中間目標に向けた進捗状況、そして次のステップについて明確にしています。



企業ポートフォリオの
炭素強度



運営上の
二酸化炭素排出量



石炭からの撤退



不動産 AUM の
CRREM との整合



不動産の炭素強度



自然資本ソリューション



積極的な外部との
エンゲージメント



積極的な内部での
エンゲージメント



詳細はこちら
ウェブサイト(英文)



詳細はこちら
動画(英語)





65%

AUMのうちパリ協定の
ネットゼロ経路に
沿っている割合



33%

アクサ IM の運営上の
排出量で 2019 年から
2023 年までに削減した
割合

2023 年 12 月 31 日現在

● 脱炭素化

世界のネットゼロ排出に向かう道のは、**協働して取り組む**ことを必要とします。アクサ IM に託された投資の管理者として、資産運用会社には、財務的リターンをもたらしながらパリ協定の目標達成に貢献する能力と責任があります。

アクサ IM は、投資家として、そして企業として**2050 年までにネットゼロを達成**

： することにコミットしています。
： アクサ IM の投資の優先事項には、
： 企業（債券および株式）
： ポートフォリオの**脱炭素化***、
： 石炭からの**撤退**、不動産資産
： からの排出量**削減**が含まれます。

： これと並行して、自らの業務に
： おいて**二酸化炭素排出量を 33%**
： **削減するための取り組み**を行って
： います。

* 定義については用語説明をご覧ください。

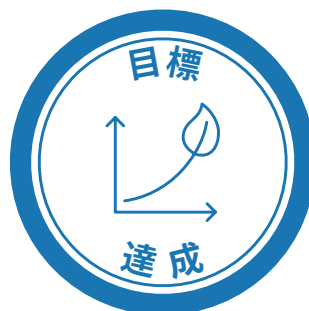
アクサIMポートフォリオの 脱炭素化

アクサ IM は積極的にポートフォリオの脱炭素化を目指しており、2050 年までのネットゼロに向けて取り組んでいます。

アクサ IM のポートフォリオ・マネージャーは、信頼できるネットゼロ移行計画を持つ企業を特定します。企業の気候戦略の成熟度を評価するために、定量的なデータと定性的な分析を組み合わせ、各企業の戦略の信頼性を確認する NZIF の目標設定ガイダンスを参考にした社内枠組を使用しています。この評価により、ネットゼロに向けた進捗状況を把握して、投資先企業とのエンゲージメントの指針とし、必要に応じて投資を売却する意思決定を行うことができます。

ネットゼロ戦略を持つ企業への積極的な投資に加えて、アクサ IM は多大な汚染を引き起こすセクターへの投資を防ぐ資産除外方針を確立しました。特に、アクサ IM の気候変動リスクポリシーは、石炭だけでなく非従来型の石油やガスに関する活動への関わりが最も高い企業を除外することにより、炭素強度の高いセクターへの関与を段階的に削減することを重視しています。2023 年にはこのポリシーを強化し、収益の 5% 超をオイルサンドによる生産が占める企業（以前は 20%）は除外対象となりました。

さらに、アクサ IM は投資先企業との継続的なエンゲージメントに熱心に取り組み、これらの企業のネットゼロへの道のりに影響を与え、サポートすることを目指します。



企業ポート
フォリオの
炭素強度

企業ポートフォリオには上場株式と債券資産が含まれます。炭素強度は、企業が生み出す収益 100 万ドルあたりの CO2 排出量の指標です⁽³⁾。

目標



企業ポートフォリオの炭素強度を 2025 年までに 2019 年比で **25% 削減** すること。2019 年の基準値は 147.8tCO₂e/100 万ドルです。

2023 年末時点



2019 年比で **48.6% の削減** となっており⁽⁴⁾、2025 年までの目標をすでに達成しています。



詳細はこちら
ポリシー(英文)



(3) この指標は投資先企業からのスコープ 1 および 2 の温室効果ガス排出量を対象としています。スコープ 3 排出量は、投資先企業の該当する排出量に関するデータの質が向上した際に取得する計画です。

(4) 2023 年に炭素強度が全体的に低下した主な要因は、市場効果、すなわち一般的なインフレです。



石炭投資撤退 への道筋を描く

アクサ IM は 2017 年、石炭セクターで活動する企業を包括的に除外する最初の資産運用会社の一つとなりました。今日、アクサ IM は OECD 諸国においては 2030 年までに、グローバルでは 2040 年までに石炭から撤退することにコミットしています。

除外基準を段階的に厳格化し、石炭からの撤退を徐々に進めています。2023 年現在、一般炭鉱業および発電事業の売上が収益の 15% を超える企業 (以前は 30%) は除外しています。

2022 年には、新規の石炭採掘や発電プロジェクト、拡張計画に関与するすべての企業の除外を開始しました。今後アクサ IM は、OECD 諸国においては 2026 年までに除外基準を 15% から 10% に引き下げ、基準を強化していきます。

除外に対するアクサ IM のアプローチは厳格であり、石炭活動に起因する収益の 1 ドルでさえも石炭関連の指標とみなしています。

アクサ IM の現行のポリシーでは除外されない一部の石炭収入のある企業に引き続き投資していますが、その場合もネットゼロへの明確かつ確約された道筋を有する企業にのみ投資しています。投資を通じて、こうした企業がエネルギー需要を満たしながら、石炭を段階的に廃止するための長期的な移行計画を支援します。



石炭からの
撤退

石炭からの撤退は、アクサ IM が保有する企業資産への総直接投資⁽⁵⁾ に対する、一般炭収入 (鉱業および発電) に関連性のある企業資産の割合で示されています。石炭に対する企業の関連性は、一般炭から収益を 1 ドル以上生み出すこととして定義されます。

目標



2030 年までに OECD 加盟国で一般炭収入を有する**投資先を 0% とする。**

2023 年末時点



OECD 加盟国への**投資のうちの 0.36%**



詳細はこちら
動画 (英語)



詳細はこちら
ポッドキャスト (英語)



アクサ IM は **2023 年**除外基準を厳格化し、収益の 15% 以上を石炭から得ている企業、および新規の石炭採掘または発電プロジェクトを行っている企業が除外されることになりました。

(5) 企業資産への直接投資合計とは、アクサ IM が運用するすべての該当商品における上場企業への全投資 (直接不動産やインフラ資産などのオルタナティブ資産、担保付ローン債務 (CLO)、保険関連証券 (ILS)、資産担保証券 (ABS)、または住宅ローンなどのその他のオルタナティブ・クレジットは除く) およびルックスルーではないもの (すなわち、アクサ IM が管理しているファンドの一部で他の資産運用会社が運用するファンド内の上場企業への投資は除く) です。

不動産の 脱炭素化

不動産は、世界の温室効果ガス（GHG）排出量の 40% 近くを占めています⁽⁶⁾。大手の不動産運用会社の一社として、アクサ IM は不動産セクターの脱炭素化を支援するうえで重要な役割を担っています。

2023 年には、アクサ IM の脱炭素化目標を不動産投資活動に一貫して組み込むための社内変革プログラムを開始しました。このイニシアチブは、パリ協定に沿って温室効果ガス排出量を大幅に削減するための明確なロードマップとプロセスを確立する一助となっています。

アクサ IM が運用する不動産のエネルギー効率と炭素強度を改善させるために、各不動産のパフォーマンスを把握し、向上させることを優先しています。アクサ IM の目標は、エネルギー使用の最適化、建物の改修、脱炭素熱・燃料源への移行、持続可能性の取り組みに関するテナントとのエンゲージメントを通じて、ポートフォリオの排出量を積極的に削減することです。エネルギー監査の実施は、改善計画を的確に立案し、関連するコストを見積もるうえで重要な役割を果たします。

さらに、設備の最適化、照明のアップグレード、テナントとの協働の促進など、排出量をさらに削減するためのベストプラクティスを概説したオペレーショナル・エクセレンス規約も作成しました。アクサ IM は 2024 年を通じて、これらの要件をプロパティマネージャーの指針に組み込む予定です。

不動産のサステナビリティ認証

アクサ IM は長期的なパフォーマンスを示し、利害関係者の意識を高めるために、不動産資産のサステナビリティ認証を定期的に取得しています。エネルギースター、LEED、BREEAM などのグローバル認証スキームや、フランスの HQE、スイスのミネルギーなどの地域のプログラムと連携しています。

2023 年末までに、対象となるアクサ IM の不動産 AUM の 66% が認証を受けており、2030 年までに認証取得を 75% にすることを目指しています。2011 年以降、アクサ IM はグローバル不動産サステナビリティ・ベンチマーク（GRESB）に参加しています。2023 年は「4 スター」ステータスを維持し、平均スコアは 2022 年から 5 ポイント、2020 年から 18 ポイント上昇して 87/100 となり、ESG を主導する立場にあるアクサ IM の位置づけが再確認されました。



実例

オフィスのマンションへの 転換とサーキュラー エコノミーの推進

スイスのケーニッツにあるゼーゲシュトラース 76/78 は、かつてはオフィスビルでした。住宅需要の高まりとオフィス需要の減少に対応するため、アクサ IM は建物を住宅に転換しました。改修では、太陽光発電システム、地域暖房システム、充電ステーションを設置しました。

再開発では元の建物の構造を維持し、窓や木材などの既存の材料も再利用しました。その結果、スコープ 3 排出量が 238kgCO₂e/m² と大幅に削減され、コスト削減と循環型建設の促進も実現しました。この転換の結果、CO₂ 排出量は 66.6% 削減しています。

(6) 出所：UNEP FI (<https://www.unepfi.org/themes/climate-change/40-of-emissions-come-from-real-estate-heres-how-the-sector-can-decarbonize/>)



不動産の炭素強度

対象範囲は、直接所有または運営されているアクサグループの資産です⁽⁷⁾。

目標



貸主の運営上の炭素強度を 2025 年までに 2019 年の水準から **20% 削減**することにコミット。2019 年の基準値は 31.3kgCO₂e/ 平方メートルです。

2023 年末時点



2019 年の水準から **32.6% 削減**

2023 年には、スコープ 1 と 2 の排出量は 2022 年と比較して 9.5% 減少し、関連する kWh は 10.9% 減少しました。これは、排出量の少ないエネルギー源への切り替えやテナントとのエンゲージメントにより、建物のエネルギー利用を最適化し、排出量を最小限に抑えるというアクサ IM の方針を反映しています⁽⁸⁾。

今後は、新しいオペレーショナル・エクセレンス・規約のベスト・プラクティスをプロパティマネージャーの指針に追加していく予定です。



詳細はこちら
ポッドキャスト(英語)



不動産 AUM の CRREM との整合

炭素リスク不動産モニター (CRREM) は、世界の気温上昇を 1.5°C または 2°C までに抑えるため、科学に基づいた脱炭素化ルートを提供します。基準値は CRREM V1 の参照ポートフォリオに基づきます⁽⁹⁾。2023 年の数値は、CRREM V2 (2023 年の CRREM V1 手法の変更後) に対して測定されたものであり、対象となる合計 AUM の約 35% を占めています⁽¹⁰⁾。

目標



2025 年までの炭素リスク不動産モニター (CRREM) の軌道に沿って、**直接不動産の AUM の 50% を維持**すること。

目標



AUM の 69%は CRREM の軌道に沿っています (2022 年通年データに基づく)。

(7) 報告範囲には、未開発地、開発中または改修中の敷地、林業資産、資産運用の管理対象外の資産または助言対象の資産は含まれません。

(8) 貸主の範囲は時間の経過に伴い安定しないことに留意することが重要です。これは、テナントの変化によって影響を受け、空いている領域が貸主の範囲として考慮され、管理される領域がテナントとの契約に基づいて変化するためです。また、データの対象範囲を経時的に大幅に拡大しています。(2019 年は貸主が管理する平方メートルの 46%、2022 年は 77%、2023 年は 79%) 特に、2023 年の報告範囲は AUM 約 630 億ユーロ、すなわち不動産エクイティの AUM 総額の約 77.5% であり、KPI に含まれる資産は貸主のすべてのユーティリティについて完全なデータ (時間および面積において 90% を超えるカバレッジとして定義) を取得できた場合となっています。したがって、2019 年のデータとの比較には注意が必要です。

(9) 基準値の参照ポートフォリオは、フランス、ドイツ、英国、イタリア、ベルギーの欧州の主要地域に所在する 80 件の不動産資産で構成されています。スイス、米国、オーストラリア、日本のデータは入手できておらず、これらの国の対象範囲として改善されれば、将来の結果に重大な影響を及ぼす可能性があります。

(10) 資産が KPI に含まれるのは、建物全体のデータが実績値 (完全なデータ) またはギャップを埋めたり外挿 (高品質の推定値) で使用できる場合のみです。



詳細はこちら
動画(英語)



業務運営における 脱炭素化

アクサ IM は、2050 年までにネットゼロ企業になることを目指しており、投資先企業に期待するのと同じ厳格な基準を自らにも課しています。これを達成するため、アクサ IM は外部パートナーと緊密に協力して、測定、削減、オフセットという三段階のプログラムを立案し、戦略を実行しています。

測定



2012 年以降、アクサ IM はスコープ 1、2、および最大規模のオフィスに限定した出張での二酸化炭素排出量を追跡しています。緊急性が増す気候変動対応と規制の強化に対応し、2021 年には排出量の約 2/3 を占めるサプライチェーンからのスコープ 3 の排出量を含むすべての拠点および全スコープの排出量を報告対象とするよう対象範囲を拡大しました。この調査は、「GHG プロトコル事業者排出量算定基準」の方法論を用いて毎年実施します。2023 年のアクサ IM の総排出量は 34,247tCO₂e でした⁽¹¹⁾。

削減



アクサ IM は、排出量（エネルギー、保有車両、出張）と天然資源の消費量（紙、水、廃棄物）を削減するために、2019 年の基準値に対して野心的な 2025 年の目標を設定しました。これらの目標は具体的な成果を達成することを目的としており、進捗状況は毎年測定され報告されます。グローバルな方針が削減努力の指針となり、市場ごとに異なる持続可能性の成熟度に対応する地域的な方針がそれを補完します。これらの取り組みをさらに支援するために、アクサ IM はクライメートパートナーと提携し、すべての拠点を対象とした新たなネットゼロのロードマップを策定し、スコープ 3 のサプライチェーン排出量に対処しています。

オフセット



炭素管理戦略の最終段階として、まだ削減できない排出量を相殺します。カーボンオフセットが単独の解決策でないことは認識していますが、アクサ IM の業務において避けられない排出量に対応する一助となります。2023 年、アクサ IM は購入サービスによる排出量を除く業務全体の排出量（12,624tCO₂e）をオフセットするためのカーボンクレジットを購入しました。これらの質の高いクレジットは、メキシコ、モロッコ、中国における 5 つのプロジェクトを支援しています。これにより、環境負荷の低減を図るとともに、アクサ IM の全体的な二酸化炭素排出量の削減を継続していきます。

(11) 2023 年、アクサ IM の運営における排出量は、ロケーション基準のアプローチでは 34,247tCO₂e で、マーケット基準のアプローチでは 33,451tCO₂e でした。ロケーション基準の方法は、地域の電力網の排出強度に基づいてエネルギー排出量を計算します。一方、マーケット基準の方法では再生可能エネルギー証書（REC）などの契約を通じて企業が購入する電力に基づいています。



事例

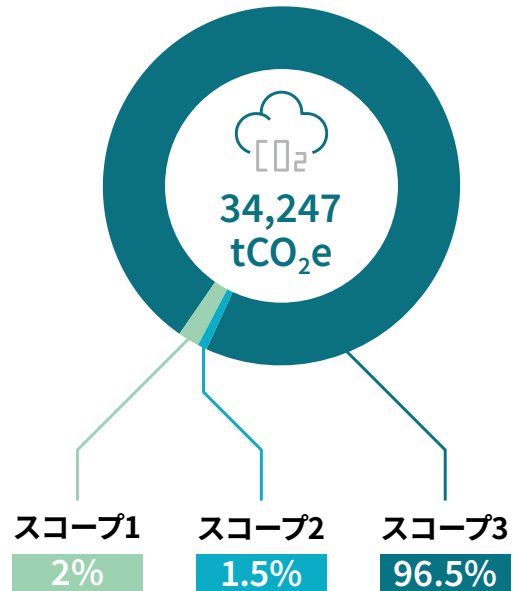
アクサ IM の排出量の測定と報告のための提携

2021 年、アクサ IM はインパクト投資戦略を通じて**クライメートシード**を買収しました。クライメートシードは、温室効果ガス管理ソフトウェアと認定炭素クレジット市場を含む、二酸化炭素排出量の報告および削減のためのプラットフォームです。

アクサ IM は 2023 年にクライメートシードの環境報告ツールを使用し、温室効果ガス排出量の報告を強化し、現地拠点からの意見を取り入れてアクサ IM のニーズにあわせて調整しました。

このツールが持つ予測機能のおかげで、アクサ IM が進捗状況を追跡し、目標を達成し、積極的な意思決定を行うことが促されました。また、アクサ IM はクライメートシードを通じて炭素クレジットも購入しています。

2023 年のスコープ別のアクサ IM の排出量 (%)



事例

カーボンオフセットを通じたクリーン・バイオガスの家庭への供給



2023 年にアクサ IM が支援したカーボンオフセット・プロジェクトの一つに、中国四川省のバイオガス開発プログラムがあります。

このプロジェクトは、高度なバイオガス消化装置と無煙のバイオガス調理ストーブを用いて低所得の農村世帯を支援することを目的とし、地元の技術者が設置や維持管理を行います。バイオガス消化槽には、これまで穴に捨てられていた家畜糞尿が供給され、クリーンで安価なバイオガスに変換され、石炭や薪の代わりに調理、暖房、照明に手軽に利用されています。

バイオガスへの転換後、このプロジェクトは 40 万近くの農村世帯の生活を大幅に改善し、年間約 80 万 tCO₂e を削減しました。



詳細はこちら
ポッドキャスト(英語)



詳細はこちら
動画(英語)



二酸化炭素排出量の削減を重視



出張

▶ 目標

-25%

対面でのミーティングは不可欠ですが、アクサ IM は出張を最適化する必要があることも認識しています。アクサ IM では出張は 2 番目に高い排出源であるからです。2020 年から 2022 年にかけては、パンデミックの影響で出張が大幅に減少しましたが、デジタルツールの強化とリモートワークの増加を活用して、必要不可欠な出張のみを優先することで、これをさらに向上させることを目指しています。必要な場合にのみ、最も持続可能な方法で出張が行われることを徹底するために、アクサ IM は社内出張規則を改訂しました。改訂版には、3 時間以内の移動に電車を使用することや、一部の会議にデジタルソリューションを使用することで長距離移動を削減することなどが定められています。今後は、持続可能な行動のためのガイドラインを強化し、出張規則の見直しと更新を行う予定です。上級幹部とのコミュニケーションと従業員の意識向上を通じて規則の効率性を改善し、排出量を追跡するための出張ダッシュボードを立ち上げ、旅行代理店と提携して持続可能な航空燃料などの選択肢を模索します。



エネルギー

▶ 目標

-36%

アクサ IM は 2023 年に、最大規模のオフィス 6 か所において 100% 再生可能電力に移行しました。4 か所では直接供給を行い、残りの 2 か所は再生可能エネルギー証書（REC）の購入を実施しました。さらに、持続可能な建物への移行、職場スペース利用の最適化、温度規定やフロア閉鎖などのエネルギー節制計画の実施により、全体的なエネルギー消費量を削減しました。今後、データセンターを含むさらに多くの施設で再生可能電力の利用を拡大し、貸主やエネルギー供給者との連携を通じて追加の省エネ機会を模索していきます。



保有車両

▶ 目標

-15%

2023 年には、フランスの事業所において、低排出ガスを優先的に導入し、すべての新規取得車はハイブリッド車または電気自動車にすることを義務付ける新しい保有車両ポリシーを導入しました。社用車を取得する基準も厳格化しています。また、世界の複数の事業所で保有車両の規模縮小に成功し、環境目標の達成を支援しました。今後、アクサ IM は一貫性と有効性を確保するためにグローバルおよび各地域の COO と緊密に協力しつつ、関連するすべての拠点においてこのポリシーの実施を強化することに焦点を当てていきます。また、保有車両のさらなる削減にも継続して取り組んでいきます。



さらなる前進：持続可能性基準

アクサ IM は、イベントの運営、企画、参加者の環境への影響を最小限に抑えることを目的とした「サステナブル・イベント・スタンダード」を含む、事業全体の持続可能性基準を確立しています。この基準は、名称入り素材の再利用、イベント関連の移動の削減、地元で調達した食材を使ったベジタリアンメニューの優先などの実践を促進します。また、生産、流通、廃棄時の環境負荷を低減するため、コーポレートギフトの配布を廃止するコーポレートギフト・スタンダードも導入しました。これらの資金は代わりに慈善寄付に活用され、アクサ IM の社会的責任へのコミットメントを後押しします。



運営上の 二酸化炭素 排出量

この KPI は 50 人以上の従業員がいる拠点に限定され⁽¹²⁾、エネルギー、出張、保有車両という 3 つの主要な排出ストリームにまたがっており、クライメートシードと共に実施する完全な温室効果ガス排出量測定よりも対象範囲が狭くなっています。

目標



2025 年までに**運営上の二酸化炭素排出量を 2019 年の水準から 26% 削減**する⁽¹³⁾。
(2019 年の基準値は 9,366tCO₂e)⁽¹⁴⁾

2023 年末時点



2019 年の水準から **33% 削減**し、
2023 年は 6,238tCO₂e となりました⁽¹⁵⁾。

(12) 対象となる拠点は組織構造、従業員の動態、オフィスの場所の変更など、さまざまな要因によって変更される場合があります。従って、排出量の推移や 2025 年目標に対する進捗状況は、排出削減の取り組みだけでなく、オフィスネットワークの構成の変化にも影響されます。

(13) この削減目標は、各編成の排出削減目標を加重平均して算出しています。2019 年の水準を基準値とし、2025 年までに出張関連の排出量を 25%、エネルギー使用による排出量を 36%、保有車両による排出量を 15% 削減することを目指しています。

(14) 2019 年の基準値は以前は 8,493tCO₂e と計算されていました。改善された方法論と対象範囲の変更により、9,366tCO₂e に再計算されました。

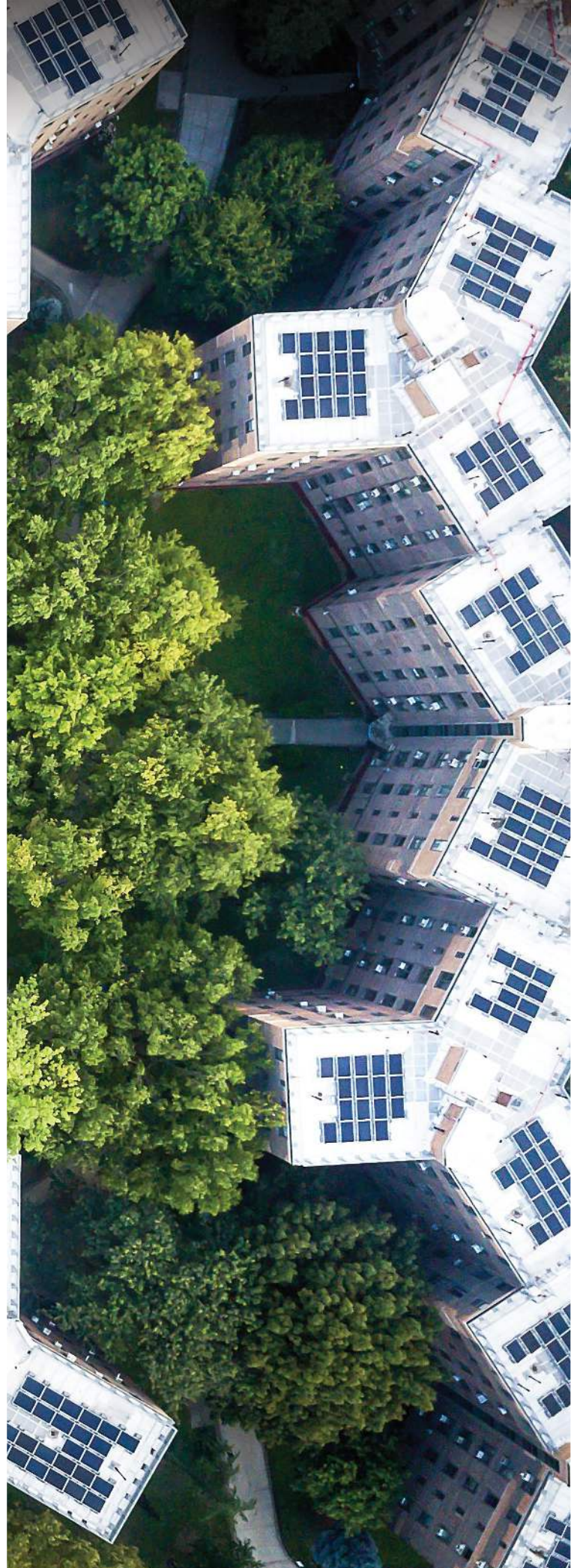
(15) しかし、アクサ IM の運営上の二酸化炭素排出量は 2022 年以降 77% 増加しています。前年比でのこの増加は、主に出張、特にアジアへの往復のフライトがコロナ禍前の水準に戻ったことが要因です。



詳細はこちら
TCFDレポート(英文)



詳細はこちら
動画(英語)





400 億ユーロ

をグリーン* 投資に

* グリーン投資には、グリーンボンド、実物資産
(グリーン・ビルディング、グリーン・インフラ)、
グリーン・テーマ型株式が含まれます。



67%

2020 年からの増加割合

すべての数値は2023年12月31日現在のものです。

II. 資本の振り分け

責任ある投資家としてのアクサ IM の役割は、ポートフォリオを脱炭素化することだけにとどまらず、意識的に資本を振り向けることで積極的に**プラスの影響**を与えることにも関わります。

アクサ IM は、実物資産、債券、株式、ETF、インパクト投資など、アクサ IM の厳格な持続可能性基準を満たす投資に**資金を振り分けています**。

これらの投資には、**財務的な戦略**とともに、**環境的**または**社会的**特性を

促進する戦略や、**持続可能な成果**を重視する戦略が含まれます。

各戦略は、欧州連合サステナブル・ファイナンス開示規則（SFDR）第 8 条および第 9 条に該当します。

アクサ IM の戦略の一部は、フランスの **Greenfin**、ベルギーの **Towards Sustainability**、ドイツ語圏の **FNG-Siegel** など、サステナビリティ関連のラベルを取得しています。

サステナブル戦略と ACT戦略

ACT シリーズの戦略では、より持続可能な経済への移行を支援するという目的を持って投資を行っています。

上場市場では、アクサ IM の ACT シリーズは持続可能性へのリスクや良好なガバナンス慣行への強化されたアプローチを継続して採用しながら、お客様の気候変動や不平等などの問題に関する特定の ESG 目標の達成を支援するように設計されています。対象は、株式、債券、マルチアセット、上場投資信託 (ETF) にわたり、2023 年末にはアクサ IM のグリーン投資の 280 億ユーロを占めました。

ACT シリーズは、単に ESG 基準に準拠するだけではありません。戦略によっては、投資の意思決定は持続可能性の優先事項が直接的に作用し、一つ以上の特定の ESG 目標または国連 SDGs の達成を目指します。さらに、ACT シリーズ内のインパクト戦略は、社会と環境に意図的、積極的、測定可能かつ持続可能な影響を与えるように設計されています。

債券

債券は ACT シリーズの AUM の大部分を占めています。アクサ IM は、グリーン・ソーシャル・サステナビリティ・ボンド (GSSB) を評価するための厳格な独自の枠組を、発行体の ESG 戦略、調達資金の管理、プロジェクト・タイプ、インパクト・レポートという 4 つの主要な柱に基づいて開発しました。さらに、これらの債券の国連 SDGs への貢献度や整合性も評価します。この徹底した評価により、最も関連性が高く影響力のあるプロジェクトのみに資金を提供することを確実にしています。

4 ACT シリーズの 基礎となる つの原則



**持続可能な投資目的と
目標とする成果**



**定性・定量調査が
アクサ IM のアプローチを支援**



**相対的に魅力的な財務リターンと
測定可能なプラスの効果を
同時に生み出すモデル**



**強固な議決権行使と
エンゲージメント方針**





実例

社会的発展への投資



ACT シリーズ内のテーマ別戦略の一つは、**社会的発展**です。この戦略では、社会にポジティブで測定可能な影響を与える企業に投資しながら、長期的な財務リターンを実現することを目指します。背景を問わず、すべての人が健康で充実した生活を送れるよう支援することに重点を置いています。

この戦略では、社会的包摂、医療ソリューション、安全 & セキュリティ、エンパワーメントという4つの主要な社会的テーマに沿って上場企業に投資します。先進国および新興国で満たされていない社会的ニーズに応え、社会的価値を確実に創出できる企業を選定します。

アクサ IM のポートフォリオに含まれるすべての企業は、国連 SDGs の対象とする10の社会的目標のうち、少なくとも一つに積極的に貢献しています。

例えば、**エンパワーメント**を促進するために、教育や健康的なライフスタイルを可能にする製品やサービスへのアクセスを拡大する企業を探します。またこのテーマでは、中小企業経営者、自営業者、仕事と家庭の両立を支援する企業も追求しています。



実物資産

2023 年末の実物資産の AUM は 898 億ユーロでした。
これには不動産エクイティ、グリーンインフラ、森林管理が含まれます。

不動産

改善が必要な資産に投資するとともに、持続可能性を核としたプロジェクトにも積極的に投資します。不動産エクイティと商業用不動産（CRE）デットの両方に投資し、積極的な運用によって資産価値の向上を目指します。アクサ IM のアプローチは、グリーンエネルギーへのアクセスを拡大し、持続可能性のパフォーマンスを高めるためにテナントやパートナーと協力することに焦点を当てています。開発にあたっては、リサイクル可能な木材や木質繊維などの環境に優しい材料を優先的に使用し、コンクリートや鉄への依存を減らし、環境負荷の低減に努めています。

2023 年、アクサ IM はミラノのサン・シーロ地区で都市型住宅再生計画の建設を開始しました。この計画には 3 万平方メートルのマンション（半分は手頃な価格の住宅用）と 1 万平方メートルの新しい公園が含まれています。マンションの電力供給には再生可能エネルギーのみを使用するほか、この敷地には電気自動車の充電ポイントも設置されます。このプロジェクトは EPC クラス A エネルギー認証を目指しています。さらに、アクサ IM は、100 本以上の新しい木を植樹し、3 本の歴史的なプラタナス属の木を現地で保全することにより、地域の生物多様性を改善する計画です。



不動産 AUM の **66%** は
グリーンビルディング認証を取得しており、
うち 38% は「非常に良い」または
それ以上の評価を得ています。



森林管理

持続可能な林業への投資は、生物多様性を育み、長期的に持続可能な運営を確保することを目的としています。アクサ IM の林業資産の 100% が、森林管理協議会（FSC）または森林認証プログラム（PEFC）のいずれかの環境認証を取得しています。アクサ IM は、作業林の平均炭素貯蔵を増やすことを優先し、それによって二酸化炭素を隔離します。



約 **85,000**
ヘクタールの環境認証森林資産



グリーンインフラストラクチャー

アクサ IM は、クライメート・ボンド・イニシアチブのタクソノミーに沿ったインフラ・デットとエクイティの両方に投資しています。アクサ IM が投資するのは、コミュニティの長期的なニーズを満たしながら、低炭素な未来の創造に貢献するセクターです。

そのようなセクターの一つがエネルギー・公益事業で、アクサ IM は再生可能エネルギー容量を創出することを優先しています。資産の中には、スマートグリッドや風力発電所、太陽光発電所などがあります。2022 年に投資した世界最大の洋上風力発電所であるオーステッド社の英国にあるホーンシー 2 に続き、2023 年もこのセクターへの投資を継続しました。

特に、イベリアの再生可能エネルギープラットフォームであるフィネルジのエクイティを 25% 取得しました。アクサ IM の投資は、フィネルジがポルトガルやスペインでの風力発電所や太陽光発電所の開発、建設、稼働においてさらなる拡大を目指すなかで、同社の成長を支援します。この取引により、アクサ IM の再生可能エネルギー投資における総稼働容量は約 3.3 ギガワット (GW) となりました。

もう一つ重視しているセクターは輸送部門です。電気自動車の充電ネットワークへの投資など、必要不可欠な交通システムの電化を支援しています。



100 以上の
インフラプロジェクトに
融資を実行



詳細はこちら
動画(英語)



すべての数値は 2023 年 12 月 31 日現在のものです。

プライベート市場での インパクト投資

インパクト投資は、環境や社会にプラスの影響を与えると同時に、競争力のある財務リターンをもたらすことを目的としています。アクサ IM は 2013 年以降、この種の投資を先駆けて行っています。

アクサ IM のプライベート市場アプローチを通じて、アクサ IM は社会的課題を特定し、現実世界のソリューションに投資し、投資する資本の有効性を測定します。資金不足が深刻な大規模な課題を対象とし、投資期間を 10 年以上とする長期資金を活用します。機敏性と効果を最大化するため、プライベート・エクイティ、ベンチャーキャピタル、プライベート・デット、プロジェクトファイナンスなどのオルタナティブ資産を通じて資本を展開しています。

アクサ IM の戦略

アクサ IM は、4 つのインパクト投資戦略を通じて、財務上の成果と、定義された環境または社会的インパクト目標がリンクしているプロジェクトに投資します。

気候ソリューション

気候ソリューションの投資は、気候変動との闘い、気候変動の緩和と適応に焦点を当てます。特に、化石燃料への依存を減らすための脱炭素化ソリューションを提供しています。

自然資本

この戦略は、生物多様性を保全し、気候変動に対処するために、森林保全、植林、持続可能な森林管理、農業の改善と湿地の回復を支援します。

グローバル・ヘルス

革新的な医療機器、医薬品、ワクチン、診断技術に投資し、質の高いヘルスケアへのアクセス改善を目指します。

金融包摂

この戦略は、公式な金融システムと除外された個人や企業との間のギャップを埋めることを目的としています。アクサ IM は、十分なサービスを受けられていない人々のための決済・送金サービス、信用供与、預金、保険商品に投資します。



詳細はこちら
インパクト投資レポート(英文)



実際の成果 の創出

アクサ IM の目的は、インパクト投資を通じて、実証可能な形で環境や社会に貢献することです。この戦略を開始して以来、アクサ IM が支援したプロジェクトや企業は以下のような成果を上げています。



環境



1 億 900 万

トンの CO2e 排出を回避

アクサ IM が占める割合：
1,580 万トン



220 万

トンの廃棄物削減

アクサ IM が占める割合：
25 万 8,000 トン



3,510 万 世帯に

クリーンエネルギーを供給

アクサ IM が占める割合：
920 万世帯



10 万 4,000

ヘクタールの
持続可能な管理下にある土地

アクサ IM が占める割合：
6 万 3,300 ヘクタール



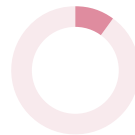
社会

2,400

か所の医療施設をサービスが
行き届いていない地域に開設

15

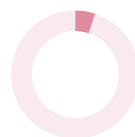
件のヘルスケアソリューションを開発



1 億 9,800 万

ヘルスケア・ソリューションの流通

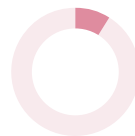
アクサ IM が占める割合：**1,980 万件**



520 万

人の健康状態 / 命をヘルスケア
ソリューションによって改善 / 救助

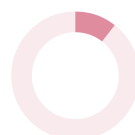
アクサ IM が占める割合：
26 万 9,000 人



1 億 5,000 万

人が金融包摂を通じて手段を獲得

アクサ IM が占める割合：**1,350 万人**



560 万

万人の生徒が恩恵を享受

アクサ IM が占める割合：
59 万 8,000 人

これらは 2013 年に戦略を開始して以来、投資先から開示された集計結果に基づいています。投資先から開示された影響の総計と、アクサ IM の出資額に基づいた影響の結果の「割合」を報告しています。この割合は「アクサ IM が占める割合」という形で表示しています。実際に含まれるデータは、個々の組織 / プロジェクトから得たものです。データは 2024 年 4 月現在のものです。過去の結果は将来の結果を示すものではありません。

情報 / 数値は情報提供のみを目的としており、変更される可能性があります。期待されるインパクト・リターンは保証されたものではなく、変更されることがあります。

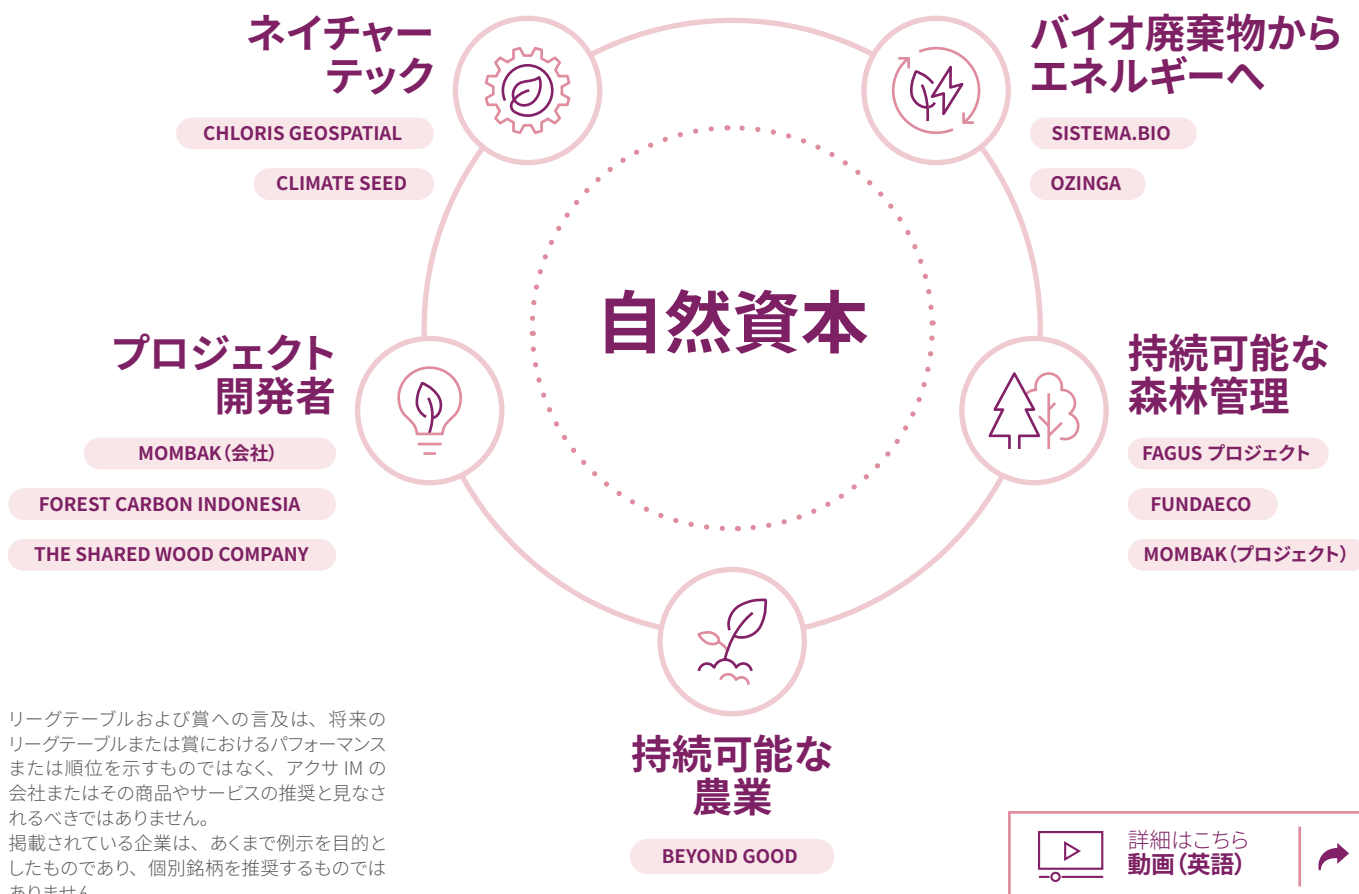
自然資本戦略 を重視

森林は、気候変動の緩和と適応における重要な役割を超えて、水の供給、生物多様性の保全、地域社会の生活に不可欠です。森林伐採や土地劣化による森林破壊は、温室効果ガス排出量の約 20% に値し、気候変動や生物多様性に壊滅的な影響を及ぼしています。アクサ IM の自然資本戦略は、こうした懸念に対応するために開発されました。

アクサ IM は、自然資本である森林の保全、保護、回復を行う企業やプロジェクトに資本を割り当て、自然が気候ソリューションとして機能する力を維持し、生物多様性に必要な価値の高い生息地を保護します。アクサ IM が重視する投資は次のとおりです。

- 森林、泥炭地、マングローブなどの主要な生態系の保全への資金提供
- 地域社会の生活を改善しつつ、保全地域への侵入を阻止する持続可能な土地利用プログラムの実施
- 排出削減クレジットと生態系サービスクレジットの発行を通じて気候変動緩和に貢献し、土地所有者の森林の環境的および社会的便益の収益化を実現

アクサ IM は、自然資本戦略を通して以下の企業やプロジェクトに投資しています。





自然資本ソリューション

対象範囲には、森林管理への投資および自然資本に特化した戦略が含まれます。

目標



2028 年までに自然資本ソリューションに **12 億ユーロ** を投入

2023 年末時点



自然資本ソリューションに **9 億 1,900 万ユーロ** を投入

事例

ブラジルのアマゾン熱帯雨林の再生

アクサ IM の自然資本戦略を通じて、ブラジルのアマゾンの森林再生に取り組み、在来種を用いた炭素除去を行うスタートアップである **Mombak** (モンバク) に投資しました。

アマゾンの熱帯雨林では、畜牛業と農作物の生産のために毎年約 100 万ヘクタールの森林破壊が生じています。その結果、温室効果ガス排出量が増加し、住居、生息地、食料源が破壊されています。

2023 年には、モンバクの森林再生プロジェクトに 4,900 万ドルを直接投資することにコミットし、同社の少数株式を取得しました。アクサ IM の投資は、荒廃した 1 万ヘクタールを超える牧草地を、在来樹木の植林と自然再生の支援を組み合わせることで森林を再生するというモンバクの目標を支援するものです。また、モンバクは森林再生を求める土地所有者に対して、技術、知識、サプライチェーンへのアクセスも提供しています。

「モンバクは在来樹木を植林することで、地元住民に利益をもたらす生物多様性を伴うプランテーションの創出に貢献しています」と、アクサ IM オルツで自然資本とインパクト投資の責任者を務めるアレクサンドル・マーティン - ミンは述べています。

もう一つの重要な成果は、最大 600 万の質の高い炭素クレジットの創出です。樹木は自然保全のために植林されているため、伐採や土地の売却による収入はありません。このプロジェクトでは代わりに、これらのプランテーションが貯蔵する炭素からクレジットを販売することによって収入を得ます。



アレクサンドルは「モンバクは、将来の炭素クレジット販売のためにマイクロソフトのような企業とすでに契約を結んでおり、プロジェクトの質の高さと完全性が証明されています」とも話しています。

掲載されている企業は、あくまで例示を目的としたものであり、個別銘柄を推奨するものではありません



III.



14%

2023 年に増加した
投資先企業との
エンゲージメントの割合 *



110 万ユーロ

110 万ユーロ アクサ IM の
2023 年の慈善寄付総額

*2022 年と比較したエンゲージ
メント・ミーティングの回数

エンゲージメント

より持続可能な世界への移行に資金を提供することは協働の取り組みです。アクサ IM は、変化を推進するために**さまざまな利害関係者との連携**に努めています。アクサ IM は投資家として、投資先企業に**環境、社会、ガバナンス (ESG)** 目標を優先させるように働きかけています。

雇用主としては、従業員が自らの可能性を伸ばし、アクサ IM の持続可能性へのコミットメントに貢献するための**包摂的な環境**を醸成することを目指しています。

そして企業として、アクサ IM はサプライヤーに**責任ある慣行**を実践することを奨励し、**慈善活動**やボランティア活動を通じて持続可能な地域社会の構築に取り組んでいます。

投資先企業との エンゲージメント

アクサ IM は、持続可能な未来への移行に向けて企業を導くことで、より広範な変化を推進するために影響力を行使する機会を得ています。

アクサ IM では、投資家エンゲージメントを、変革を推進するダイナミックなプロセスと捉えています。アクサ IM の目的は、明確で成果重視の目標を掲げ、投資先企業の持続可能性の実践を後押しすることです。また、エンゲージメントを通じて、アクサ IM の投資の持続可能性に関連するリスク特性の理解を深め、アクサ IM の長期目標との整合性を高めています。

議決権行使は、積極的な株主としてのアクサ IM の役割の重要な一部です。2024 年の投票シーズンを前に、コーポレートガバナンス & 議決権行使ポリシーを更新しました。今後は、気候変動に関するロビー活動の透明性や給与の公平性について、より厳格な基準で投票していきます。

2023 年のエンゲージメント

2023 年、アクサ IM は世界各地の 503 社の事業体と 681 件のエンゲージメントを実施しました。これは 2022 年から 14% の増加になります。さらに、2023 年には、以前よりもエスカレーション手法を多く活用しました。これには、投票におけるエスカレーション、協働的なエンゲージメント、他の投資家との協力などが含まれます。



詳細はこちら
ポリシー(英文)



2023 年の投資先企業との エンゲージメント

681

件のエンゲージメントを
503 の事業体と実施

69%

のエンゲージメントは
国連の SDGs に関連

4,856

回の株主総会出席

54,782

件の提案に
アクサ IM が投票

15.08%

すべての決議のうち
反対票を投じた割合

62%

の会議で、アクサ IM は
少なくとも一回は経営陣への
反対票を投票

すべての数値は 2023 年 12 月 31 日現在のものです。

気候変動対策

気候変動対策は引き続きアクサ IM のエンゲージメントの主なテーマであり、2023 年のエンゲージメントの 37% を占めています。エネルギー業界、銀行業界（融資方針を通じて）、建築資材業界など、最も重要な分野に注力しました。

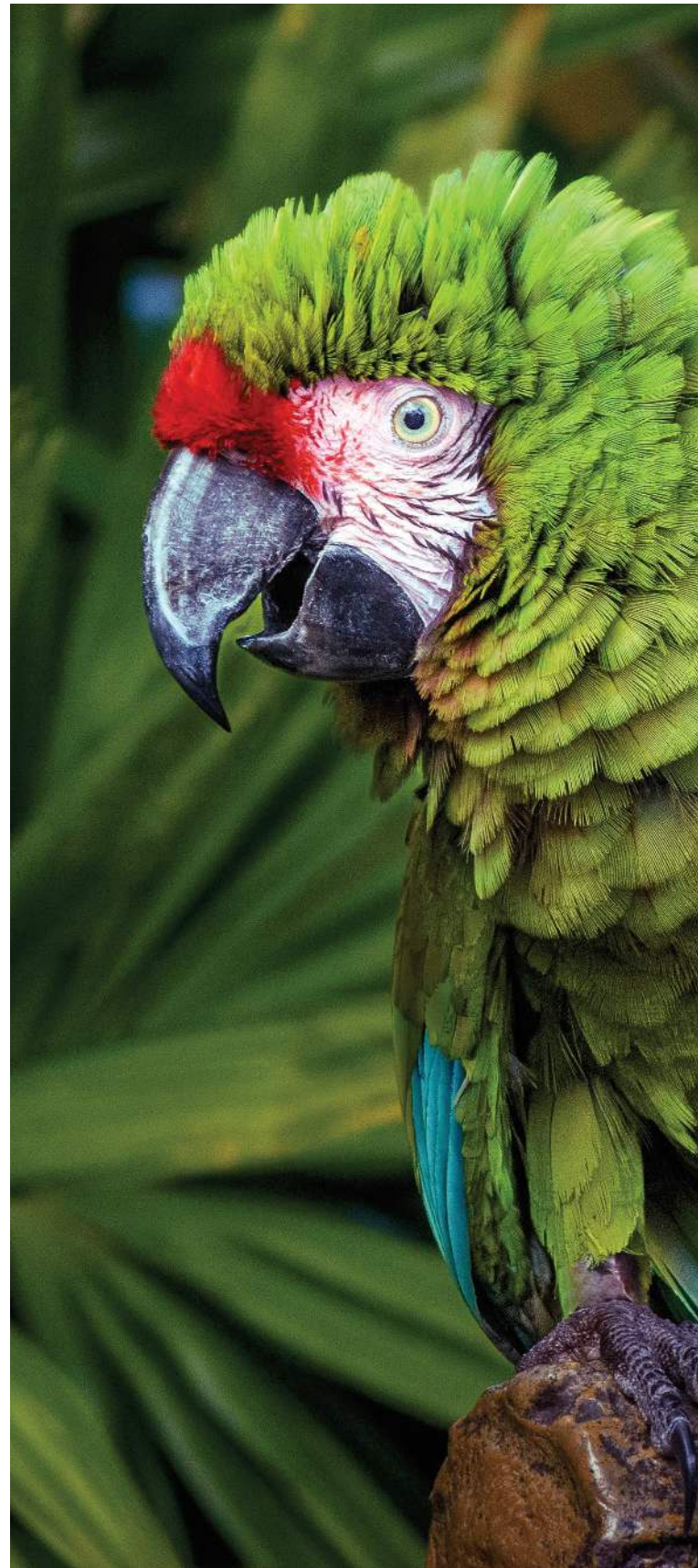
2023 年には、2021 年に発表し 2022 年に開始した「気候変動対応で出遅れている企業」とのエンゲージメント・イニシアチブを引き続き追求しました。気候変動対応で出遅れている企業として特定された企業各社と少なくとも 1 回は会合を持ち、全体として多くの面で進展が見られたことを嬉しく思っています。企業は新たに正式なネットゼロの野心を設定し、多くの企業は目標、方針、報告を改善し、銀行は大部分の重要なセクターに対して専属の方針を展開する動きを徐々に進めています。

例として、アクサ IM は米国の建築資材会社とエンゲージメントを行い、気候変動対策への同社の野心を強化しました。同社が同業他社に後れを取っていることに気づいたアクサ IM は、2022 年と 2023 年に同社の経営幹部全員とミーティングを行いました。その結果、事業全体におけるスコープ 1 ネットゼロ目標の設定、中間目標の改善、TCFD 開示の強化など、同社の気候戦略が大幅に強化されたことを嬉しく思います。

生物多様性の保全

アクサ IM はまた、森林破壊、温室効果ガス排出、汚染、資源の過剰な集積、侵入種などの生物多様性分野における圧力について、企業と積極的にエンゲージメントを行いました。2023 年は食品、消費財、化学セクターに注力しました。

2022 年、アクサ IM は森林破壊に関する対話を開始するため、ブラジルの食品加工会社に連絡を取りました。回答が得られなかったため、2023 年の年次総会で取締役の再選に反対票を投じることで、エスカレーションの姿勢をとりました。この行動がきっかけとなり、2023 年半ばに最初の対話が行われ、2025 年までにアマゾンで、2030 年までにセラード地域で森林破壊ゼロを達成するという同社の戦略について見直しを行いました。アクサ IM は、同社の対応は適切であり、目標は実現可能であることを確認しました。方針を守っていない企業を追跡するための追跡可能性と規定が進展していることが裏付けとなっています。



コーポレートガバナンス

2023 年、アクサ IM の全エンゲージメントの 17% はコーポレートガバナンスに関するものでした。これらの議論の中心は、役員報酬、持続可能なガバナンス、株主権利の保護です。

過去 2 年間にわたり、アクサ IM はオランダ兼米国の音楽会社と提携し、高い役員報酬に対する懸念を指摘してきました。CEO の報酬は約 2 億 7,500 万ユーロと見られており、アクサ IM は、同社の報酬慣行は欧州の基準と整合していないと考えています。そのため、アクサ IM は同社の報酬報告書および報酬委員長の再選に反対票を投じました。今後もエンゲージメントを継続し、更なるエスカレーションを検討していきます。

社会

2023 年は社会的テーマにも重点を置きました。これには、人的資本管理（エンゲージメントの 17%）、社会関連（10%）、公衆衛生（1%）が含まれます。

2023 年、アクサ IM は他の先進国やアジア諸国に比べて遅れている日本企業の取締役会や経営陣における性の多様性の推進を強化しました。性の平等の KPI に焦点を当てたアンケートを配布し、回答について議論するための会議を行い対応しました。このアプローチにより、多様性、平等性、インクルージョン方針が進んでいる企業の成熟度と信頼性を評価し、対応が遅れている企業の意識を高め、改善を促すことが可能となりました。



積極的な外部とのエンゲージメント

対象範囲は、過去 2 年間にアクサ IM によって直接、または Climate Action 100+ を通じて協働で実施されたエンゲージメント活動です。

目標



70% 重要セクターの**投融資先排出量**のうち 2025 年までにエンゲージメントの対象とする割合

2023 年末時点



68.9% エンゲージメント対象となった**投融資先排出量**の割合

2023 年は、気候変動対策や生物多様性保全などをテーマに、世界の 503 の事業体と 681 件のエンゲージメントを行いました。



詳細はこちら
スチュワードシップ・レポート(英文)



詳細はこちら
ポッドキャスト(英語)



詳細はこちら
動画(英語)



サプライチェーン 全体とのエンゲージメント

アクサ IM は主に、市場データ、IT、コンサルティング、人事などのサービスと、事務用品などの業務用品を購入しています。

持続可能な調達の実践

アクサ IM は、サプライヤーの専門知識と提供されるサービスの質に加えて、評価プロバイダであるエコバディスから取得するサプライヤーの炭素、インクルージョンと多様性、総合的な持続可能性に関するスコアを考慮し、持続可能性に対するコミットメントに基づいてサプライヤーを選択します。また、全サプライヤーに有効なエコバディスの評価を維持するよう要請しています。2023 年には、調達費用の 94% がエコバディスまたは S&P グローバルの評価対象となり、サプライヤーの半数以上が炭素パフォーマンスで「リーダー」または「アドバンスト」の評価を受けています。また、アクサ IM はすべてのサプライヤーとの契約に持続可能性に関する条項を盛り込み、アクサグループの持続可能な調達ガイドラインの準拠を図っています。

人権の擁護

アクサ IM のサプライヤーはアクサ IM の持続可能性に関する契約条項に署名することにより、自社とサプライヤーが児童労働や強制労働に関与しないことを徹底することにコミットします。アクサ IM は、国連世界人権宣言やグローバル・コンパクトなどの方針に基づき、バリューチェーン全体を通じて国際人権の諸原則を守ることに尽力しています。このコミットメントは、アクサグループの人権ポリシーとアクサ IM の行動・倫理規範によってさらに強化されています。

排出量の削減

アクサ IM のバリューチェーン全体の活動から排出されるスコープ 3 の CO₂e はアクサ IM の最大の排出源です。アクサ IM は、連携しているクライメートシードの協力を得て、最も排出量の多いサプライヤー 100 社を特定しました。2024 年後半には、サプライチェーンの持続可能性プログラムを開始します。このプログラムは、サプライヤーとのエンゲージメントを通じて排出量データの正確さと精緻さを向上させ、サプライヤーが独自の排出削減戦略を策定する際の支援を提供することを目的としています。



従業員との エンゲージメント

アクサ IM では、従業員が自らの可能性を伸ばし、多様なコミュニティの中で成功するために必要なサポートを提供するよう努めています。

インクルージョンと多様性は長年にわたるアクサ IM の戦略課題です。雇用主として、包摂的な文化を構築することは、アクサ IM の優先事項の中核にあります。すべての人が自身の居場所と役割があると感じ、多様なコミュニティの中で能力を発揮できる環境を作ることは、アクサ IM の「エンプロイヤー・プロミス」の一部です。アクサ IM のグローバルな多様性 & インクルージョン・ポリシーは、アクサ IM のコミットメントと重点分野をまとめたものです。

2023 年には、社内外でより多様で包摂的な職場を構築するための有意義な取り組みを実践しました。例えば、アクサ IM はより包摂的な資金管理業界を奨励するための国境を越えたイニシアチブであるダイバーシティ・プロジェクト・ヨーロッパの創設メンバーとなりました。また、インベストメント 20/20 とのパートナーシップを開始し、アクサ IM がサービスを提供している人々やコミュニティを反映した多様な卒業生、学校、大学の卒業予定者を採用しています。

また、アクサ IM は性別、民族、ソーシャルモビリティ、年齢、障害、性的指向に関する進展を図るために、取締役会役員が後援し、外部関係者と提携した社員人材グループを立ち上げました。人材グループには以下のものが含まれます。

GENDER EQUALITY NETWORK (GEN)

性の平等を促進し、インクルージョンの文化を奨励することを目指します。

GENERATION

世代間のコラボレーションを促進し、知識の交換を奨励します。

ACCESS

あらゆる社会経済的バックグラウンドを持つ才能ある個人が、その真の可能性を確実に発揮できるようにします。

I AM PROUD

LGBT+ の従業員とその支援者の協力のもと、誰もが自分のすべてを発揮して安心して仕事ができる環境を作ります。

MOSAIC

多文化環境の価値を強調し、過小評価されている民族の包含を推進します。



77

国籍の従業員が
会社全体に在籍



36%

グローバルでの
女性上級職の割合



詳細はこちら
ポリシー(英文)



学びと育成の促進

アクサ IM では、深い学びの文化を育み、入社した瞬間からすべての従業員が個人的および専門的な成長に責任を持つことを奨励しています。

持続可能性に関する研修とエンゲージメント

2023 年には、学びを通じて ESG 戦略を推進することを目的として従業員一人ひとりの年間目標に新しい ESG 開発目標を追加しました。それぞれの目標達成のために、従業員はニーズや関心に応じてさまざまな学習活動に参加できます。

特に、グループ全体で実施しているアクサ・クライメート・アカデミーでは、気候変動に関する一般的な研修や役割別の研修を実施しています。チームメンバーは数時間かけて、気候変動がバリューチェーンにどのような影響を与え、環境への影響を減らすためにどのように貢献できるかについて学びます。

アクサ IM では、ESG 問題に関する専門家によるライブ研修セッションも提供しています。2023 年初頭には不動産分野の ESG 研修を始動させました。開始以来、320 人を超える従業員が不動産投資において進化する ESG 課題について取り上げる、この 3 時間の研修を修了しました。また、アクサ IM ESG アカデミーを通じて、外部の ESG 認定やスキルアップへのアクセスも提供しています。



積極的な内部でのエンゲージメント

対象範囲は 2023 年 12 月 31 日現在のすべての常勤正社員（ジョイントベンチャーを除く）です。

目標



2023 年には、**従業員の少なくとも 70%** が ESG およびサステナビリティに関する意識向上のための追加セッションに参加すること。（すでに 100% が完了しているアクサ・クライメート・アカデミーのプログラムを超えた範囲）

2023 年末時点



77% の従業員 追加の意識向上セッションに参加

今後は、外部の連携先のクライメートシードやクライメートパートナーと協力して新しいコンテンツを開発し、教育の提供を拡充していきます。また、こうした新しい教材に加えて、既存のリソースを選定して包括的でアクセスしやすい学習環境も築いていきます。

アクサ IM は、特定の ESG トピックに焦点を当てた一連の教育イベント「サステナビリティ・トーク」も導入しました。このトークでは、対象分野の専門家と関わり、重要な問題についての理解を深め、これらの洞察を自分の役割にどのように適用できるかについて議論する機会を従業員に提供します。



詳細はこちら
動画(英語)



コミュニティとの エンゲージメント

「大切なものに投資」し、サービスを提供するコミュニティに貢献するというアクサ IM のコミットメントは、アクサ IM のインパクト慈善活動プログラムおよびボランティア活動プログラムに反映されています。

インパクト慈善活動

アクサ IM は、選定されたインパクト戦略からの手数料の 5% を慈善事業を支援するために寄付しています。2023 年の寄付額は 70 万ユーロを超える額となりました。

気候変動、生物多様性、教育、健康など、責任ある投資家としてアクサ IM が高い専門性を有する分野での慈善活動に注力しています。アクサ IM が支援するプロジェクトは、具体的な成果と目標に照らして評価されます。アクサ IM は、意味のある変化には時間と資源が必要であると考えているため、長期的に慈善団体にコミットすることを約束します。

2023 年にはインパクト慈善活動プログラムを通じて 5 つの組織を支援しました。医薬品アクセス財団 (Access to Medicine Foundation)、アフリカの医師団 CUAMM、エピック財団 (Epic Foundation)、フランス野鳥の会 (Ligue pour la Protection des Oiseaux)、ワールド・ランド・トラスト (World Land Trust) です。

ボランティア活動

地域の慈善団体とのボランティア活動は、従業員が直接地域社会と関わることを可能にします。

グループ全体のプログラムであるアクサ・ハーツ・イン・アクションを通じて、アクサ IM の従業員の多くは社会にプラスの影響をもたらすプロジェクトに対して定期的に時間を割き、専門知識を提供しています。若者が金融の知識を身につけ、貯蓄の価値を理解することを支援する多くの学校支援プログラムもその一部です。

2023 年に英国で試験的に導入されたアクサ IM の新しいボランティア休暇制度は、近日中に他のグローバル拠点にも拡大される予定です。この制度の下では、各従業員は年間 2 日まで、自分が選んだ登録慈善団体でボランティアをするために休暇をとることができます。



実例

農村地域での 出産の支援

アクサ IM は、サハラ以南アフリカの脆弱なコミュニティの健康改善に取り組む非政府組織 (NGO) である**アフリカの医師団 CUAMM** を支援しています。

アクサ IM の寄付は、アンゴラのオンバジャ市にあるチウロ病院のプロジェクトに資金提供されます。そこでは、人口の大部分が医療サービスへのアクセスが限られた農村地域に住んでいます。当該病院ではアフリカの医師団 CUAMM が妊産婦、新生児、子どもの医療を提供しており、特にこの地区で最も弱い立場にある女性や世帯を対象としています。また同 NGO は病院や現地での介入を通じて栄養失調と闘うための活動も



行っています。

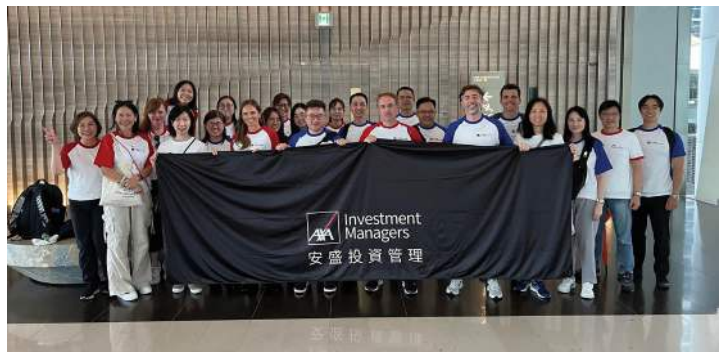
2023 年、チウロ病院ではアフリカの医師団 CUAMM が 6,377 回の妊婦健診を実施し、2,000 人以上の出産を支援し、栄養不良病棟で 279 人の妊婦に医療ケアを提供しました。



実例

アクサ・ウィーク・フォー・グッド

AXA グループでは、毎年サステナビリティに捧げる 1 週間を設けており、グループ全体で共にボランティア活動を行っています。2023 年のアクサ・ウィーク・フォー・グッドのテーマは女性のエンパワーメントでした。活動内容は、脆弱な立場にある女性のために生理用品キットを作成することから、自己防衛レッスンや街頭でのハラスメントに関する啓発トレーニングに参加することまで多岐にわたりました。2023 年の活動でアクサ IM の従業員が行ったボランティア活動は 792 件を超え、2022 年から 148% 増加しました。合計で 413 時間をこの活動に捧げました。



実例

アクサ IM リサーチ・アワード

責任ある資産運用会社のリーダーとして、私たちは期待を超えることにコミットしています。これには、助成金、賞、寄付を通じて研究者や科学界に力を与えることが含まれます。

アクサ IM リサーチ・アワードは、公正かつグリーンな移行を可能にするために研究が果たすべき重要な役割を称えます。気候変動の社会的側面に焦点を当てた 2023 年版では、アニカ・ハク博士がアワードを受賞しました。ハク博士は、グローバルサウスの都市および恵まれない人々への影響を研究しています。



先進的な基準、規範、 イニシアチブとの 整合

アクサ IM の責任投資をリードするという野心は、業界をリードする方法論と規範を遵守するというコミットメントによって裏付けられています。

測定

アクサ IM は、企業や産業の長期的な持続可能性のためには、環境、社会、ガバナンス（ESG）の問題を適切に管理することが重要であると考えています。このため、これらの問題を積極的に検討し、統合し、管理することが、アクサ IM の投資プロセスの基本となっています。

アクサ IM は、独自の ESG スコアリング手法を開発しました。ポートフォリオ・マネージャーは、ESG 課題についての資産のパフォーマンスを評価することで、ESG を考慮した投資判断を行うことができます。

スコアリング手法については、入手可能なデータの変化⁽¹⁶⁾や、発行体を用いる手法または ESG 関連の情報開示のための枠組の変化を考慮して定期的に更新しています。

また、さまざまな資産クラスにわたるアクサ IM の投資の二酸化炭素排出量および生物多様性フットプリントを測定する方法論も開発しました。

ポリシー

近年、EU サステナブル・ファイナンス開示規則や EU タクソノミーなど、主要なサステナブル・ファイナンス指針がアクサ IM の事業地域で策定されました。これらの規則は開示や商品設計に影響を与え、他の地域でも同様の法律や EU の企業サステナビリティ報告指令（CSRD）が発効されるのに伴い、さらなる変化が予想されています。



これらの規制は、実施と利用可能性についての課題をもたらす一方で、最終的には脱炭素化と革新的で持続可能なソリューションに向けた資本配分を促進するとアクサ IM は考えています。アクサ IM は投資家がこれらの規制を解釈する上で抱える困難を認識しており、より明確な指針を要求しています。また、持続可能な慣行への真の移行を効果的に促進するために、こうした法令は適切な実体経済政策を伴うべきであると考えます。

(16) ESG スコアリング手法については、世界的に義務付けられた持続可能性に関する報告基準がないため、アクサ IM は同スコアリングについて多様なデータに依存しています。また、これらは主に過去のデータに基づいており、完全性、正確性が十分でない場合があり、投資の将来のパフォーマンスやリスクについて完全に反映されていない可能性があります。



詳細はこちら
ポリシー(英文)



アクサ IM は、さまざまな原則、基準、規範、指針に従い、遵守するよう努めています。これらの内容がアクサ IM の方針、慣行および報告の基盤となっています。また、他の業界リーダーと積極的に協力してベストプラクティスの提唱、確立を行い、多くの持続可能性イニシアチブやグループを支援し、参加しています。



アクサ IM は以下を含む国際標準との整合性をとるよう努めています。



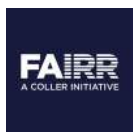
アクサ IM の投資プロセスは、国連の持続可能な開発目標（SDGs）を考慮しています。SDGs を包括的な指針として用いるほか、地球およびその人々の持続可能な開発ニーズへの貢献を評価するために使用します。



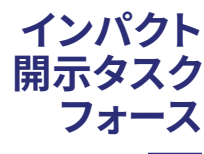
アクサ IM は、グローバルな持続可能性基準間の効果的な相互運用性の提唱者として、国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）の活動を支援しています。2017 年から 2023 年にかけて、アクサ IM は気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の開示勧告に従っていましたが、現在それらは ISSB に移管されています。



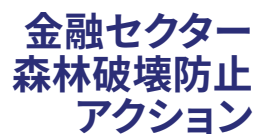
2023 年には、以下のような多様な新しい投資家イニシアチブに参加しました。



FAIRR イニシアチブは、世界の食品セクターの企業との協働的な投資家エンゲージメントを促します。エンゲージメントのテーマでは、労働リスク、タンパク質の多様化、サプライチェーンの耐性など集約的な動物生産に関連する最も重大な問題などを扱います。



インパクト開示タスクフォースは、国連 SDGs の進展に向けた企業と政府の意欲と進捗に関する透明性と説明責任を推進するために設立されました。



COP26 で立ち上げられた金融セクター森林破壊防止アクション（FSDA）には、36 の金融機関が参加しています。加盟機関は、2025 年までに各投資および融資ポートフォリオにおける農産物に起因する森林破壊リスクを排除するために取り組んでいます。

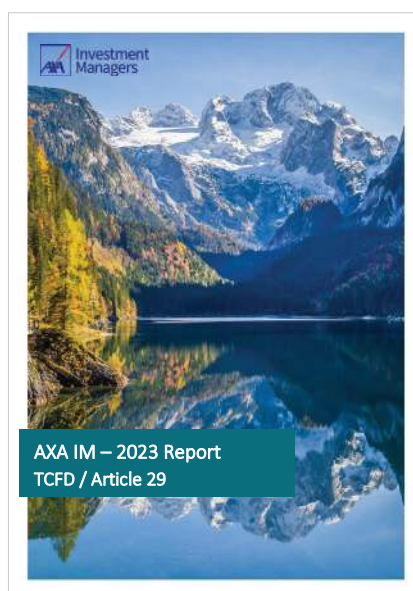
その他の資料

アクサ IM のレポート・エコシステム

アクサ IM の投資アプローチを推進するのはアクサ IM の信念です。
アクサ IM はその信念をお客様に透明性をもってお伝えし、アクサ IM の洞察と専門知識を共有して、
自分たちのセクターとより広い世界の変化を誘導することを目指しています。



スチュワードシップ・
レポート（英文）
— 2023 —



TCFD
第 29 条報告書（英文）
— 2023 —



インパクト投資 - プライベート市場の
年次レビュー（英文）
— 2023 —

持続可能性に関する
アクサ IM のポリシーおよび
レポートにアクセスするには、
以下のサイトをご覧ください。

<https://www.axa-im.com/our-policies-and-reports>

アクサ IM のソートリーダーシップ

2022 年にアクサ IM 資産運用研究所を設立し、お客様に徹底した調査、洞察、投資アイデアを提供しています。このソートリーダーシップのプラットフォームは、気候変動、生物多様性、性の多様性などの世界的な傾向を分析するため、調査、責任投資、投資チームから専門家を集めています。この調査から得られた知見は、意思決定の後押しとなり、スチュワードシップ戦略と除外戦略の調整に活用されます。2023 年にはアクサ IM の専門家による以下を含むさまざまな洞察を公開しました。



グリーンなエネルギー移行の
人的コストを理解し、対応する (英文)

ヴィルジニー・デルー

アクサ IM パリ 責任投資 (RI) リサーチ・ヘッド



バイオ燃料とエネルギー移行：
緑の芽吹きまたはバイオウォッシング？ (英文)

オリヴィエ・ユージェン

アクサ IM パリ クライメートリサーチ・ヘッド



アセットマネージャーが生物多様性の
課題に取り組む上で 4 つの重要な要素 (英文)

クリス・アイゴ

アクサ IM 英国 資産運用研究所議長
兼アクサ IM コア CIO



2023 年の株主総会シーズン：
新たな挑戦によって責任ある
投資家の成果を浮き彫りに (英文)

コンスタンス・カイエ

アクサ IM パリ シニア・コーポレート
ガバナンス & スチュワードシップ・アナリスト

エロイズ・クロ

アクサ IM パリ シニア・コーポレート
ガバナンス & スチュワードシップ・アナリスト

アレクサンドル・プロスト

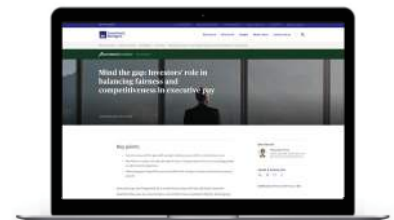
シアクサ IM パリ ニア・コーポレート
ガバナンス & スチュワードシップ・アナリスト



化学業界が直面する持続可能性の課題：
投資家が知っておくべき情報 (英文)

マリアナ・ピリャヌエバ

アクサ IM パリ ESG アナリスト



ギャップを考える：
上級職の報酬について公平性と競争力の
バランスをとるうえでの投資家の役割 (英文)

アレクサンドル・プロスト

アクサ IM パリ シニア・コーポレートガバナンス
& スチュワードシップ・アナリスト



COP28：期待値には満たなかったものの、気候
変動に向けた資金には一定の進展があり (英文)

ヴィルジニー・デルー

アクサ IM パリ 責任投資 (RI) リサーチ・ヘッド

アクサ IM チームによる
持続可能性に関するインサイトを
さらにご覧になりたい場合は、
以下にアクセスしてください。

<https://www.axa-im.com/investment-institute#sustainability>

用語説明

AGM：年次株主総会

オルタナティブ（資産クラスとして）：伝統的な資産クラスに分類されない投資の区分。例えば、プライベート・エクイティ、ヘッジファンド、不動産、インフラ、コモディティ、プライベート・デットなどです。

AUM：運用資産残高

基準年：在庫会計の文脈では、基準年とは企業の排出量を時間の経過に伴って追跡する際の基準となる過去のデータ（特定の年、または基準期間の場合は複数年の平均）を指します。

生物多様性：特定の地域内のすべての異なる種類の生物

カーボンオフセット：バリューチェーン内の排出削減の代替として、企業のバリューチェーン外の活動から炭素クレジットを購入します。炭素クレジットは、1 トンの温室効果ガス排出回避量、温室効果ガス排出削減量または温室効果ガス除去量を表す取引可能単位です。

気候変動適応：実際の、または予想される気候刺激およびその効果や影響に対応するための生態系、社会、経済システムの調整。適応とは、潜在的な損害を緩和し、また気候変動に伴う機会から便益を得るために、プロセス、慣行、構造を変更することを指します。

気候変動緩和：温室効果ガスの排出を削減し、吸収を促進するための人的介入

脱炭素化：国、個人またはその他の事業体が化石炭素ゼロを達成することを目指すプロセス。一般的には、電力、産業、輸送に関連する炭素排出量の削減を指します。

森林破壊：(1) 農業やその他森林以外の土地利用への転換、(2) 植林地への転換、(3) 深刻かつ持続的な劣化の結果としての天然林の喪失

エクイティ：企業の所有権を表す投資で、配当やキャピタルゲインを通じてリターンの可能性を提供します。株式や持分などがその例です。

ETF：上場投資信託

投融資先排出量：銀行や投資家が行う融資や投資に由来する排出量の絶対値。投融資先排出量は、資産クラスレベルまたはポートフォリオレベルで金融機関が算出して開示します。

債券：定期的で予測可能な利息の支払いと満期時の元本の償還を提供する投資。例としては社債や政府証券があります。

GHG：温室効果ガス

IPCC：気候変動に関する政府間パネル

ネットゼロ排出：ネットゼロ排出は、特定の期間内において人為的な温室効果ガスの大気への排出量が、人為的な除去量によってバランスが取れたときに達成されます。

OECD：経済協力開発機構

パリ協定：2015 年 12 月に国連気候変動枠組条約（UNFCCC）で採択された気候変動に関する法的拘束力のある国際条約。パリ協定は参加国に対し、産業革命前の水準からの地球の気温上昇を、2°C を大幅に下回る水準に抑え、温暖化を 1.5°C に抑制する努力を追求し、すでに発生している変化に適応し、時間の経過とともに努力を定期的に強化することを求めています。

SBTi：科学に基づく目標イニシアチブ

スコープ 1 排出量：報告する企業が所有または管理する事業から生じる直接的温室効果ガス排出量

スコープ 2 排出量：報告する企業が消費するために購入または取得した電力、蒸気、暖房または冷房の発電に伴う間接的な温室効果ガス排出量

スコープ 3 排出量：報告する企業のバリューチェーン内で発生する間接的な温室効果ガス排出（スコープ 2 に含まれるものを除く）で、上流と下流の両方の排出を含みます。

SFDR：サステナブル・ファイナンス開示規則

TCFD：気候関連財務情報開示タスクフォース

CO2e：CO₂ 換算の数値を意味しており、様々な種類の温室効果ガスの量を、CO₂ 相当量に換算して排出量を示す単位として使用されています。





ディスクレーマー

掲載されている企業は、あくまで例示を目的としたものであり、個別銘柄を推奨するものではありません。本資料は情報提供のみを目的としており、特定の有価証券やアクサ・インベストメント・マネージャーズ・グループまたはその関連会社による投資、商品またはサービスを購入または売却するオファーを構成するものではなく、またこれらは勧誘、投資、法的または税務アドバイスとして考慮すべきではありません。本資料で説明された戦略は、管轄区域または特定のタイプの投資家によってはご利用できない可能性があります。本資料で提示された意見、推計および予測は掲載時の主観的なものであり、予告なしに変更される可能性があります。予測が現実になるという保証はありません。本資料に記載されている情報に依存するか否かについては、読者の独自の判断に委ねられています。本資料には投資判断に必要な十分な情報は含まれていません。

投資リスク及び費用について

アクサ IM が提供する戦略は、主に有価証券への投資を行います。当該有価証券の価格の下落により、投資元本を割り込む恐れがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動によっては投資元本を割り込む恐れがあります。したがって、お客様の投資元本は保証されているものではなく、運用の結果生じた利益及び損失はすべてお客様に帰属します。

また、アクサ IM の投資運用業務に係る報酬額およびその他費用は、お客様の運用資産の額や運用戦略（方針）等によって異なりますので、その合計額を表示することはできません。また、運用資産において行う有価証券等の取引に伴う売買手数料等はお客様の負担となります。

ご留意事項

当資料は、アクサ・インベストメント・マネージャーズ・グループが作成した英文資料をアクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が翻訳したものです。

日本語への翻訳に際しては、その解釈や表現に細心の注意を払っていますが、万一英文と日本語文の間に解釈や表現の違いが生じた場合には英文が優先します。

当資料は情報提供を目的としたものであり、アクサ・インベストメント・マネージャーズ・グループにおいて、特定の有価証券その他の投資商品についての投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

当資料のすべての情報は経済や市場統計の公式の提供者により提供されたデータに基づいて作成されています。アクサ・インベストメント・マネージャーズ・グループは当資料に基づいて、または、当資料に依存してなされた決定についてなんら責任を負うものではありません。この情報は、全体であれ、部分的であれ、アクサ・インベストメント・マネージャーズの承認がない限り、複製が禁止されています。

当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保証するものではありません。当資料の内容は、作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

金融商品取引業者 登録番号：関東財務局長（金商）第 16 号

加入協会：一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 投資信託協会、日本証券業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会



www.axa-im.co.jp

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社